

## 《新型コロナウイルス感染症について》

2020年1月から中国を中心に新型コロナウイルスによる肺炎が流行しています。  
日本でも2月1日より指定感染症となっています。

症状はかぜ症状と同様で全身倦怠感が強く出ることが報告されています。発熱が伴わない場合も報告されていますが肺炎を発症して重症になっている例が報告されています。

下記の症状の場合には、当院を受診される前にお住いの区の保健センターに連絡し、相談・指示を受けて下さい。

- ①かぜ症状や37.5度以上の発熱が4日以上(妊婦や持病のある方は2日以上)続いている。
- ②強い倦怠感(だるさ)や息苦しさがある。(解熱剤を飲み続けなければならない時を含む)
- ③発症前14日以内に中国湖北省または浙江省に渡航あるいは、居住していた方。
- ④発症前14日以内に中国湖北省または浙江省に渡航あるいは、居住していた方と濃厚接触がある方。
- ⑤新型コロナウイルス感染症であることが確定した方と濃厚接触がある方。

中保健センター	082-504-2528	安佐南保健センター	082-831-4942
東保健センター	082-568-7729	安佐北保健センター	082-819-0856
南保健センター	082-250-4108	安芸保健センター	082-821-2809
西保健センター	082-294-6235	佐伯保健センター	082-943-9731
夜間コールセンター	082-241-4566		

感染は飛沫感染(咳、くしゃみ、つば)や接触感染(手すり・ドアノブなどのウィルス)で感染するとされており、潜伏期は1日～12.5日(多くは5～6日)と報告されています。潜伏期でも感染力がありますので、他の人へ感染させないように注意が必要です。

インフルエンザ予防と同様に、人混みを避ける・手洗い・アルコール消毒・マスク着用・咳エチケットなどを励行して下さい。また、空気が乾燥すると、喉の粘膜の防御機能が低下します。加湿器などを使い、50～60%の適度な湿度を保ちましょう。また、十分な睡眠やバランスのとれた食事等免疫力を高める生活を心がけましょう。

一般的に、妊娠中に肺炎を起こした場合、重症化する可能性が言われています。そのため、上記①②に当てはまる場合は早めの対処をお勧めします。また、胎児への影響については不明ですが、現時点での胎児障害の報告はありません。

ご自身やご家族がコロナウィルス流行地域に滞在歴がある人、感染疑いの人と接触した人以外のケースでは、心配しすぎずインフルエンザ対策と同様に冷静に対処しましょう。